

ぜつ校長通信

No.31 (3月号その1)

蓼科高校 校長 宮澤 和人 2021.3/5



未来に羽ばたけ3年生！～ご卒業おめでとうございます～



とうとう今日は卒業式本番。3年生たちはスーツに身を包み、緊張した面持ちで入場してきました。卒業証書授与、式辞、記念品贈呈、皆勤賞など、私は生徒代表者と壇上でやり取りしました。一番嬉しいことは、授与した瞬間や贈呈された瞬間、彼らの感謝の気持ちと誇らしい感情がアイコンタクトを通して伝わってきたことでした。

式後、何人かの卒業生がわざわざ校長室まで来てくれました。「卒業してもお互い助け合って交際する」と宣言していくたカップル、「先生、世話になったぜ」と跳ねて気持ちを表現する人、農業後継者になる意欲に燃える人などそれぞれでしたが、みんな晴れ晴れした笑顔で本校を卒業っていました。



地域連携研修会～明日の地域社会を担う生徒を育てるために～



藤岡慎二先生

卒業式後という過密スケジュールの中、「地域連携研修会」を行いました。これは、令和4年度の新教育課程施行をにらみ、「地域連携教育」、「課題解決学習」などの準備を行うために動機づけをする目的で計画したものです。

従来本校では学校設定科目「蓼科学」と「地域I・II」を置いて、地域連携と課題解決学習を実践してきました。私は、これを再編成し、より多角的に地域の方々や団体との接点を増やして校内の省力化を図ると同時に、従来の授業のみならず進路指導や諸行事など校内のあらゆる教育活動を通し、地域社会を担う人材を育てるのが理想だと思っています。

今回講師をお招きした方は、産業能率大学教授で(株)Prima Pinguino 代表の藤岡慎二先生でした。参加者は先生方だけではなく、町役場の方、公営塾の先生も参加し盛況でした。藤岡先生も超ハードスケジュールの中お越しいただき、ジグソー法によるグループ討議とディスカッション、地元行政とタッグを組んだ学校魅力化の実践例を精力的にお話ししてくださいました。

これから教育は校内の枠組みの中で完結ではなく、地域社会、特に町行政とともに上り上げていくものだと、参加者みんなが認識した機会になりました。



困ったお話(その28) (困った、やられた)

年度末の職員面接をしている。面接日と時間は教務室に貼り出したスケジュール表へ先生方に都合の良い日時を記入してもらい、校長室でお話を聴いている。ある日教務室に顔を出した時、チケットのようなものが表の横にたくさん貼り出されているのに気がついた。はて、どこかで見たような…。

あっ、これは「ぜつ校長通信No.26 (1月号その4)」で私が載せた「蓼高サービス券」だ。この券にはこう書いたのを思い出した。

「この券を見せると、校長先生から1回ほめてもらえます」

やられた。

蓼高サービス券



この券を見せると、校長先生から1回ほめてもらえます

※令和3(2021)年3月31日まで有効。他校では使用できません。

再掲 ※禁複製

追記：N先生は10枚出してきた